

## 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

岐阜県立東濃高等学校 学校番号 39

1 学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材の育成
2 現状の分析	<p>○ 入学後、生徒は年次を重ねるごとに、生活や学習等の取り組みに対し改善が見られつつある。</p> <p>○ 「あ・じ・み」(挨拶、時間、身だしなみ)の指導が定着しつつあり、地域でのマナー等への評価が向上しつつある。</p> <p>▲ 基礎学力が定着していない生徒が少なくない。学習意欲を刺激し、学習習慣を身に付けさせる必要がある。</p> <p>▲ 基本的な生活習慣や規範意識が十分に確立していない。コミュニケーション能力とソーシャルスキルの学習が必要である。</p> <p>▲ 生徒の個性を伸ばし、自尊感情を育成していく場が十分とはいえない。</p> <p>▲ 外国人生徒数の増加に対し、日本語及び学力向上を含めた指導体制のさらなる研究・改善が必要である。</p>
3 学校の抱える課題	<p>・基礎学力の定着並びに授業のユニバーサルデザイン化・ICT機器の活用のさらなる推進</p> <p>・基本的な生活習慣の確立と道徳心の育成</p> <p>・キャリア教育とコミュニケーション能力(外国人生徒の日本語能力を含む)のさらなる育成</p>
4 今年度の具体的な重点目標	<p>◇学校教育目標の達成を目指した新たな教育課程の編成、及び評価の研究</p> <p>◇学習指導・教科指導の充実(「地域社会人の育成」「主体的で対話的な深い学び」「ICT機器の活用」「外国人生徒等の指導の充実」)</p> <p>◇生活指導・特別活動指導の充実(「基本的な生活習慣」「規範意識」「活気と思いやり」「人権指導」)</p> <p>◇コミュニケーション能力の育成とキャリア教育の充実(「演劇ワークショップ」「キャリア教育プログラム」「自己探求の時間」「外部講師の活用」)</p>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
・学習指導	①ユニバーサルデザインの授業	①生徒による授業評価	①年2回実施。おおむね良好。	B	○ICT機器の積極的活用。 ▲生徒主体の授業展開への工夫・研究。	B
	②誰にでも「分かる」授業	②学びの基礎診断	②学年を経るにやや向上傾向。	B		
	③主体的で対話的な深い学び	③教員による授業評価	③年2回実施。意識がやや向上傾向。	B		
・生徒指導	①基本的な生活習慣の確立	①学校関係者アンケート	①保護者の86%が肯定的意見。	A	○指導への理解と高評価。 ▲研修等の充実による指導への共通理解の徹底。	
	②規範意識の醸成	②生徒対象アンケート	②生徒の91%が肯定的意見。	A		
	③全職員による共通指導	③教員の年度末反省	③項目ごとの具体的な指導基準の不徹底。	C		
・進路指導	①望ましい勤労観の育成	①生徒対象アンケート	①生徒の87%が肯定的意見。	A	○オンラインの有効活用。 ▲外国人生徒への進路指導・支援の充実。	
	②コミュニケーション能力の育成	②学校評価アンケート	②演劇ワークショップのアンケートで高い評価。	A		
	③ソーシャルスキルの習得	③行事ごとのアンケート	③外部講師に対して肯定的意見。	B		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月5日

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面においてはICT機器が導入されてオンライン学習が可能になったが、地域とのコミュニケーションは引き続き継続されることを期待する。</li> <li>・外国人の生徒が多いことを長所と考え、学校内で外国人と日本人がより積極的にコミュニケーションをとり、異文化の交流ができるとよい。</li> <li>・コロナ禍での就職への影響が懸念される中、希望者対象のインターンシップ実施など、進路希望実現への取組をしてはどうか。</li> <li>・部活動にも制限が多かった中でも懸命に取り組んでおられ、応援したい。</li> </ul>	<p>12 来年度に向けての改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器活用した指導方法の研究を推進し、「すべての生徒にわかる授業」「主体的で対話的な深い学び」へと結びつけていく。</li> <li>・外国人生徒への日本語指導の研究をさらに進め、組織的・総合的支援の充実を図る。</li> <li>・1年生のキャリア教育プログラムの成果を生かし、2・3年次も地元企業の社会人との交流の機会を設け、系統立てた進路学習を継続する。また、外国人生徒等への進路指導・支援の充実を図る。</li> <li>・部活動においては、年間を見通した計画的で効率的な活動行う。</li> </ul>
---	---